

学校教育目標  
心豊かで しなやかに  
生きる力 を育成する

# 西ノ京

京都市立西ノ京中学校  
学校だより ⑫  
令和3(2021)年3月19日  
校長 内田 隆寿

## 祝 第72回卒業証書授与式 ～ 逆境を乗り越え 125名 西ノ京からの旅立ち ～

3月15日(月)、春の風は強かったものの、暖かく晴れやかな天候の中、令和2年度西ノ京中学校第72回卒業証書授与式を挙行了しました。

昨年は新型コロナウイルスの感染拡大が心配される中での初めての卒業式で、半ばぶっつけ本番のような形で行いましたが、今年については、緊急事態宣言明けとはいうものの、これまでの様々な経験から、ある程度心に余裕をもってこの日を迎えることができました。もちろん昨年同様、参列者を制限したり、通常の式次第をかえて時間短縮を図ったりしながらの式とはなりましたが、3年生もおだやかな表情で式に臨みました。また、昨年度はかなわなかった在校生代表による「送辞」、卒業生代表による「答辞」も復活し、厳かな雰囲気の中にもぬくもりのある卒業式であったと思います。

先日、廊下を歩いていたある3年生の生徒に「いよいよ卒業だけど、どんな感じ?」と尋ねてみたところ、「すごく楽しみ!」と元気な声が返ってきました。普段なら1・2年生が主体となる「3年生を送る会」も、今年は3年生が運営主体となって、これまでの感謝の気持ちを込めて1・2年生に自分たちの成長した姿を見てもらう内容で取り組んでくれました。そうなんです。3年生たちは後輩に自分たちの背中を見せ、「あとは任したぞ!」とすでに次のステージへと一歩を踏み出しているのです。卒業生の皆さん、中学校3年間で身に付けた力をもとに、それぞれが春の新生活に向け、しっかりと準備してください。この1年を乗り越えた皆さんならきっと大丈夫! 在校生を引っ張る頼もしい学年でした! ……ありがとう…

ここに、学校長式辞を掲載して、式の報告といたします。

### 式辞

街路樹のモクレンやこぶしの花を目にすると、私たちの生活がコロナ禍に翻弄されている一方で、時の流れ、季節は巡るという自然の摂理・真理は、絶対のものであるということを痛感いたします。三寒四温を繰り返し、新たな希望と飛躍への期待を秘めた春の息吹が感じられるこのよき日に、皆様のご理解とご協力のもと、第72回卒業証書授与式を本日このように挙行できますことに、心より厚くお礼申し上げます。また、ご来賓代表として、PTA会長様、学校運営協議会代表理事様にご臨席賜りましたこと、心より感謝申し上げます。

卒業生の皆さん。ご卒業おめでとうございます。ただ今、卒業する125名の皆さんに、クラス代表授与とはなりましたが、卒業証書をお渡ししました。これをもって皆さんの中学校3年間、そして義務教育9年間の全課程が修了いたしました。皆さんの今日の喜びと感激は、皆さん自身のたゆまぬ努力もさることながら、保護者や家族の方々の温かい育みなしには、到底果たしえなかったことを忘れることなく、今改めて、これらの人々に感謝の気持ちを持ってもらいたいと思います。

さて、この日を迎え、卒業生の皆さんには今、どのような思いが去来しているのでしょうか。おそらく、在学中の印象深い場面が一人一人の脳裏に甦ってきていることでしょう。それらすべてが「経験」という名の財産であり、かけがえのない貴重なものとして、皆さんのこれからを確かに支えてくれるはずです。コロナ禍により様々な活動に制限が掛けられる中、現実をしっかりと受け止め、力強く歩もうとする皆さんの姿が随所に見られました。



皆さんは特にこの1年間を通じて、例年の卒業生には無い学びを体験することになりました。それはコロナ禍における様々な場面で、貴重な意思決定がなされてきたということです。意思決定は判断、および決断によってなされます。判断とは、多くの選択肢から論理的に比較検討をし、一つの解に到達していくものです。そして、決断とは、たとえ情報が不足している場合でも何らかのアクションを取らなければならないように、緊急を要する状況下で行われるものです。その一つの例が修学旅行でした。度重なる変更の末、もうこれ以上延期することができないぎりぎりの線が10月30日出発の信州白馬の旅でした。この日程に変更しようとしたのは学校の先生たちです。しかし、沖縄の修学旅行を準備してきた気持ちを、信州白馬の旅に切り替えて取り組んでいこうと決断したのは、何を隠そう3年生の皆さん自身です。当日は、長時間のバスの旅、かなりタイトなスケジュールにもかかわらず、それぞれが自分自身の行動を場面に応じて適切に判断し、大きく体調を崩す人も出さず、むしろ準備万端で取り組んだかのような満足度の高い修学旅行として完結させてくれました。同じように、気持ちを切り替え、前に進もうと頑張る姿は体育祭や合唱コンクールの場面でもあり、コロナ禍による規模の縮小や方針転換に伴い、逆にそのことでさまざまな発見、予想を超えた思いがけない成長をする皆さんの姿をそこに見ることができました。

皆さんが進むこれからの社会は、変化の著しいものとなるでしょう。「十年一昔」では到底済まない、一年一年そのものが変わり続け、世にいう常識がすぐ変わってしまう激しい変革に戸惑うことも多いと思われます。それでも皆さんは、一人ひとりが自己の進路を決める主体者として、いくつもの選択肢から判断・決断をしていかなければなりません。皆さんにはどんな時も納得して適

切な判断ができるよう今後も学び続け、そして果敢な決断ができるよう、挑戦し続けてほしいと願っています。

3年前の入学式で私から皆さんに、目指すべき学校のイメージを、本校の校章を銀河系の姿に例えてお話ししました。銀河系の星一つ一つが美しく輝き大きな渦となるように、一人一人の個性が光り輝き、エネルギーのある生き生きとした集団になってほしいという願いでした。個性が光り輝くためには多様性が認められる社会でなければなりません。デジタル化が一層進む世の中では、人とのつながりがより重視されます。他者とつながり、交わりを大きくすることで、それぞれの個性が引き立ち、大きな集団の中でそれぞれの光を放ちます。これから皆さんは西ノ京中学校という銀河集団からは離れてしまいます。しかし、宇宙には様々な銀河が存在します。4月からはそれぞれの新しい銀河で関係をつくりながら、自分色の個性ある光を放ってください。

最後になりましたが、ご列席の保護者の皆様。お子さまのご卒業、誠におめでとうございます。三年間にわたり皆様のかげがえのないお子様をお預かりし、われわれ教職員一同、精一杯努力を重ねてまいりました。この状況下で至らぬ点もあり、ご心配をおかけしたこともあったかと存じますが、本校の教育活動に賜りました温かいご理解とご協力に、心より感謝申し上げます。本日卒業していく生徒たちのこれからの成長と、私たちの西ノ京中学校の発展に対して、ご臨席いただきましたご来賓の皆様ともども、さらなるご支援を賜りますようお願い申し上げます。

それでは、卒業生の皆さん。いよいよお別れの時です。大きく社会が変わろうとしているこの節目の年に、その先駆者として歩みを進める皆さんの、限らない前途を祝し、これからも心豊かでしなやかに生きていかれることを心より祈念して、本日の式辞といたします。 令和3年3月15日 京都市立西ノ京中学校 校長 内田 隆寿

## お知らせ

●退職・離任教職員の発表は、3/24(水)12:00以降に、校内掲示板・学校ホームページで発表します。また、離任式は、3/30(火)11:00～、学校で行います。

●始業日 4/6(火) 登校 8:35 クラス発表、着任式・始業式、学活など

※学校だより『西ノ京』もこれが今年度最終号です。この1年間、どうもありがとうございました。

